

ミニトマト病害虫防除暦

令和8年度(2026) J A庄内たがわ

防除体系(登録薬剤)

2025.12.16時点の農業登録情報をもとに作成

防除時期	対象病害虫	登録農薬名	使用量及び希釈倍率	水100ℓ当り 薬剤量	使用時期	使用回数	RAC コード	備考
育苗～定植時	アザミウマ類・アブラムシ類・コナジラミ類・トマトキバガ・ハモグリバエ類	ベリマークSC※1	400株当たり薬剤量25ml	400株当たり 水10～20ℓ	育苗期後半～定植当日	1回	I:28	育苗鉢に 灌注
定植時	アブラムシ類・コナジラミ類	ベストガード粒剤	1～2g/株	-	定植時	1回	I:4A	植穴処理 土壌混和
	ハモグリバエ類		2g/株	-				
	アブラムシ類・コナジラミ類	アドマイヤー1粒剤	1～2g/株	-	定植時	1回	I:4A	植穴土壌 混和
生育期	うどんこ病・さび病・灰色かび病	ハーモメイト水溶剤 (野菜類で登録)※2	800倍	125g	収穫前日まで	-	F:NC	散布
	うどんこ病・さび病・灰色かび病・葉かび病	カリグリーン	800倍	125g	収穫前日まで	-	F:NC	散布
	うどんこ病・すすかび病・灰色かび病・葉かび病・斑点病	ヘルコートフロアブル	4000倍	25ml	収穫前日まで	2回 以内	F:MO7	散布
	うどんこ病・すすかび病・葉かび病	トリフミン水和剤	3000倍	33g	収穫前日まで	5回 以内	F:3	散布
	うどんこ病・菌核病・すすかび病・灰色かび病・葉かび病・輪紋病	シグナムWDG	2000倍	50g	収穫前日まで	2回 以内	F:11	散布
生育期	トマトハモグリバエ・ミカンキロアザミウマ オオタバコガ・コナジラミ類・トマトサビダニ・ハスモンヨトウ・マメハモグリバエ	カスケード乳剤	2000倍	50ml	収穫前日まで	2回 以内	I:15	散布
	4000倍		25ml					
	アザミウマ類・アブラムシ類・クロバネキノコバエ類・コナジラミ類	ベストガード水溶剤	1000倍～2000倍	50g～100g	収穫前日まで	3回 以内	I:4A	散布
	オオタバコガ・トマトキバガ・トマトサビダニ・ナミハダニ・ミカンキロアザミウマ	コテツフロアブル(劇)	2000倍	50ml	収穫前日まで	3回 以内	I:13	散布
	アザミウマ類・アブラムシ類・コナジラミ類	モスピラン顆粒水溶剤(劇)	2000倍	50g	収穫前日まで	3回 以内	I:4A	散布
	コナジラミ類・トマトサビダニ・ハモグリバエ類	コロマイト乳剤	1500倍	66ml	収穫前日まで	2回 以内	I:6	散布
	オオタバコガ・コナジラミ類・トマトキバガ・トマトサビダニ・ハモグリバエ類	アフーム乳剤	2000倍	50ml	収穫前日まで	5回 以内	I:6	散布
	オオタバコガ・トマトキバガ・ハスモンヨトウ	フェニックス顆粒水和剤	2000倍	50ml	収穫前日まで	2回 以内	I:28	散布
	コナジラミ類 野菜類で登録 (施設栽培)	ラノーテープ	10～50㎡/10a	-	栽培期間中	1回	I:7C	作物体の 付近に設 置する

※RACコードとは薬剤(殺菌・殺虫・除草をそれぞれ)の系統を分けたものであり、同じ系統の剤を連続して使用しないことで薬剤の効果を持続させる場合などに使用します。

種類	使用目的	登録農薬名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
植物成長調整剤	着果促進	トマトトーン※3	低温時(20℃以下) 50倍 高温時(20℃以上) 100倍	開花前3日～開花後3日位	1花につき1回	散布

留意事項

※ 時刻より24時間を経過するまで、収穫出来ないことを示します。

※1 ベリマークSCの使用例: ミニトマト苗400株処理の場合、ベリマークSCの薬液25mlを水20ℓに希釈し(約800倍)、株当たり50ml灌注する。その後定植。

※2 10a当り(300坪)の散布量は生育に応じて100～300ℓを目安とする、但し、ハーモメイト水溶剤は150～300ℓとする

※3 ミニトマトの生長点にトマトトーンが飛散しないよう注意する。生育障害の原因となります。